

質問	回答
1 .必要散水量の算定式を理解するために説明会資料をホームページに掲載して欲しい。	1 . ホームページに掲載しました。
2 .配管口径の統一について留意しなければならない点を教えてください。	2 . 配管口径の統一は、将来計画や災害・修繕時を考慮した場合、ライフサイクルコストの観点から効果的な場合もありますが、管内流速の大小により散水ノズルの調整が難しくなったり、ポンプ能力が大きくなったりすることもあります。従って、配管の統一を導入する場合は、維持管理面や各種設備規格への影響を十分検討する事が必要です。
3 .マニュアル改訂に伴い、維持管理歩掛りは変わりますでしょうか。	3 . 維持管理歩掛りが変わるところもありますので、今後歩掛り調査を実施し変更する予定であります。
4 .外圧試験によりストレナの強度を確認する場合、どちらに相談したらよろしいですか。	4 . ストレナの外圧試験装置は、当協会でも保有していますので、ご相談ください。
5 .散水施設の更新実態調査結果のデータが平成元年～平成7年となっていますが、新しいデータはないのでしょうか。	5 . 更新実態調査については、近年調査を実施していませんでしたので、この数値しかございません。今後、協会でも調査士新しいデータをまとめる予定であります。
6 .井戸深度、ポンプ位置はどの高さからと定義すると良いでしょうか。	6 . 井戸深度はGL(地盤高さ)とします。ポンプ位置は、井戸蓋の位置+揚水管長さとして定義してください。

質問	回答
<p>7. 散水消雪の熱効率について、橋梁部の数値が記載されていませんが、教えていただけませんか？</p>	<p>7. 熱効率は、橋梁構造や散水温度により異なるため明確な回答は出来ません。 一般的には、消雪に必要な熱量に橋梁に逃げる放熱量を考えます。</p> $\text{橋梁の熱効率} = \frac{\text{消雪必要熱量}}{(\text{消雪必要熱量} + \text{橋梁への放熱量})}$ <p>ただし、散水の場合は雪に直接作用するため熱効率は無散水融雪よりも高くなります。したがって、構造上の散水量を計算し、気象条件に比して十分な散水が行われていれば、問題ないと判断して頂いて結構です。</p>
<p>8. ロータリーでの孔曲がり測定方法について事例が知りたい。</p>	<p>8. 一例ですが、やぐらの滑車ひとつを利用し、掘さく口径と同程度のゲージ管をウィンチで降下させ、偏芯量を確認する方法があります。</p>
<p>9. 河川水の温度が低い(2 など)と、以前より必要散水量が非常に多くなります。どのような理由からでしょうか。</p>	<p>9. 以前の式は 50～60%程度の露出ししか確保できない散水量式でした(2 の河川水と 13 の地下水で融雪に利用できる熱エネルギーの差を想像してください)。 従って 2 の水温では、ボイラー利用や、確保幅員などを工夫して検討ください。 施設更新の場合、既設の散水量で利用者が満足していれば、同様の散水量で設定しても問題ないと思います。</p>